

保護者の皆様

札幌市立ひばりが丘小学校
校長 佐々木 綾子

全国学力・学習状況調査の結果概要等のお知らせ

令和8年4月に、全国の6年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」につきまして、その結果の概要と課題、改善の方向についてお知らせします。

本調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握、分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。今回の学力・学習状況調査の結果についても、全国の結果と比較・分析し本校の教育活動に生かしてまいります。

以下の資料は、本校の全国学力・学習状況調査の結果についてまとめたものです。なお、今回明らかになった課題や改善の方向は、6年生に限らず学校全体の課題として捉え、今後全学年を通じて改善していきたいと考えています。

【小学校 国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

	領 域	全国平均との比較
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	大きく上回っている
	情報の扱い方	上回っている
思考力・判断力・表現力等	話すこと 聞くこと	大きく上回っている
	書くこと	上回っている
	読むこと	上回っている

【知識・技能】

- 漢字を文章の中で正しく使う。
- 情報と情報との関係について理解する。

【書くこと】

- 引用して、書き表し方を工夫する。

【読むこと】

- 目的に応じて必要な情報を見付ける。

- 日常的に既習の漢字を使う指導の充実
- 国語の学習を中心に目的や意図を明確にして計画的に話したり、引用しながら、自分の考えをまとめたりする活動の充実
- 国語の学習において、段落の役割や、話や文章の構成や展開を捉える活動の充実

【小学校 算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

領 域	全国平均との比較
数と計算	大きく上回っている
図形	上回っている
測定	上回っている
変化と関係	上回っている
データの活用	上回っている

【図形】

- 立方体の体積の計算による求め方について理解する。

【変化と関係】

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解する。

【データの活用】

- 示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け記述することができる。

- 模型などの実物を活用しながら体積を捉える活動の充実
- 割合の基本的な性質を理解し、活用できるようにするため、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表す活動の充実
- 誤りを見付けた際に、ノートに理由を記述したり、友達同士で伝え合ったりする活動の充実

【質問紙調査】

「生活習慣や学習状況に関する調査」への回答から見た本校児童の姿
～特徴的な項目を抽出してお知らせします～

【本校児童のよさ】（全国と比べると高い）

あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。

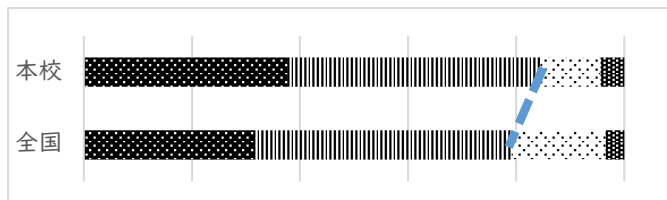


「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

本校…75.6%

全国…69.6%

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



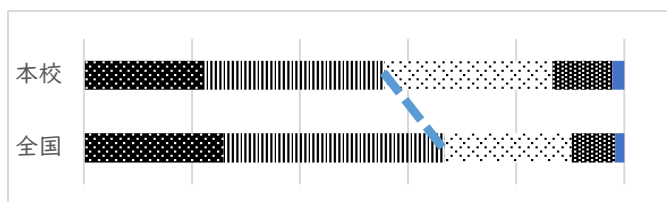
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

本校…84.5%

全国…78.4%

【本校児童の課題】（全国と比べると低い）

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

本校…58.8%

全国…63.7%

「人と違う意見を言っても否定されない」と多くの児童が考えていることは、担任と児童でそのような学級文化をつくっており、学級が安心できる場所になっているということだと考えます。

「学習内容の理解度を見直し、次の学習につなげている」ことは、本校児童の学習の姿勢のよさを感じます。だからこそ、国語・算数の全国平均を上回る結果にも結び付いていると考えます。一方で、自分の考えをうまく伝えるための手段が十分に身に付いておらず、自分の考えを表出することに苦手意識がある児童も半数近くいるということも分かりました。

その他に、グラフは掲載していませんが、朝食や就寝、家庭学習、ゲームや動画視聴などの生活習慣については、全国平均よりも良好な結果となっています。各ご家庭で、生活習慣を大切にされていることで、児童の健やかな成長や、学習効果にも結び付いています。ありがとうございます。

【改善の方向】

上記のように、子どもたちは健全な生活習慣を身に付け、良好な人間関係の中で、学習に前向きに取り組むことができています。そこに、仲間の考えを必要とする意図的な学習を取り入れ、伝えるための知識・技能の指導と評価を繰り返します。考えを伝え合う機会を確保することで、子どもたちは自分の考えを伝えるための手段を身に付け、身に付けた力を様々な場面で活用し、伝えることへの苦手意識を徐々に克服していくと考えます。さらには、伝えることに加え、傾聴すること・共感することも意識してできるよう指導することで、双方向の伝え合い「対話」が生まれ、学びが深まっていくと考えます。